

目次

はじめに.....	2
タイトル	2
開催日時	2
定員	3
主催	3
講習について	3
講習の構成	4
対象者	4
受講のメリット	5
日本における本資格講習参加者の声	6
CSR プラクティショナー資格講習受講企業・団体一覧	7
英国 IEMA 認定 サステナビリティ CSR プラクティショナー資格保持者	8
講師 下田屋毅	8
ゲストスピーカー ニコス・アヴロナス氏	11
英国 IEMA とは	12
CSE とは	12
お申込み・お問い合わせ	12
よくあるご質問 (FAQ)	13

はじめに

世界は、気候変動、人口爆発、資源不足、水不足、エネルギー・燃料問題、貧富の格差拡大、食料問題など様々な課題を抱えており、その中で企業の取り組みの重要性が増加している状況があります。それらを踏まえて、CSR/サステナビリティの分野でもグローバルな大きな流れが起きています。

国際規格 ISO26000、統合報告フレームワーク、ビジネスと人権に関する指導原則、GRI G4 など原則や基準の発行、紛争鉱物、パーム油、綿花に関わる調達やそれらの労働環境、人権課題を含むサプライチェーンの問題、持続可能な開発目標、サーキュラーエコノミー、パリ協定など海外では企業を取り巻く状況が変化し、企業はその対応に迫られています。

今回ご紹介いたします CSR 資格講習は、ロンドン在住 CSR コンサルタントが講師として、グローバルな CSR/サステナビリティの流れを踏まえ、CSR/サステナビリティのトレンドや戦略的に実施する方法などを体系的に学べるようにお手伝いいたします。また、本資格講習は、英国の主要団体である IEMA の公認資格で、世界で通用する CSR 資格です。2008 年より、世界の主要都市（シカゴ、ワシントン DC、ニューヨーク、サンフランシスコ、アトランタ、トロント、ブリュッセル、ロンドン、アムステルダム、ドバイ、アブダビ、アテネ、クアラルンプール、東京、大阪）で開催され、現在、5 大陸 28 か国約 900 人が資格保持者となっています。世界の CSR のトレンドを踏まえ、CSR の戦略的な実施を考えている企業の環境/CSR 担当者、CSR の包括的な知識の必要性を感じている方など、是非この CSR 資格講習を御検討ください。

タイトル

- 英国 IEMA 認定 サステナビリティ (CSR) プラクティショナー資格講習

開催日時

- 2016 年 3 月 7 日 (月) ・ 8 日 (火) 両日とも 9:00~17:00
(2016 年は 2 回の開催を予定しており、2016 年 3 月・10 月となります。)

開催場所

- 東京都港区 (詳細は別途講習参加者に連絡いたします)

定員

- 15 名

主催

- サステナビジョン社 (Sustainavision Ltd : <http://www.sustainavisionltd.com/>)

英国カンパニーズハウス、イングランド&ウェールズ登録 [Company No. 7477687](#)
[在英日本商工会議所](#) 会員企業

講習について

- 期間： 2 日間
- 講習前と講習後に課題があります。
- 講習後の課題の合格をもって、英国 IEMA 認定サステナビリティ(CSR)プラクティショナー資格が付与されます。
- 講義はすべて日本語で実施されます。講師やゲストスピーカーが英語で講義をする場合には、通訳が付きます。

講習料

カテゴリー	(表示額 1 人当たり)
通常料金 (個人)	175,500 円
アーリーバード割引 (早割) (2016 年 2 月 15 日迄) 10%	157,950 円
紹介割引 (15%)	149,175 円
会社割引 (1 社 3 人以上 : 15%)	149,175 円
NGO/NPO, 大学関係者、中小企業割引 : 20%	140,400 円

講習の構成

- 内容は、レクチャーとグループワークがバランスよく織り交ぜられた集中プログラムです。
- 講師と受講者の双方向でのやり取りで進められ、より効果的に学習することができます。

<トピック>

- ① サステナビリティ (CSR) とビジネス事例
- ② サステナビリティと温室効果ガスに関する現在の世界・地域の法律
- ③ サステナビリティ (CSR) 戦略 (事業に統合する方法)
関連する基準とガイドライン (国連グローバル・コンパクト、GRI G4、CDP、SROI)
- ④ 責任あるマーケティングとどのようにグリーン・ウォッシングを回避するか
- ⑤ サプライチェーンとカーボンフットプリント削減におけるサステナビリティの重要性
- ⑥ GRI と IIRC をベースにしたサステナビリティ (CSR) 報告と統合報告
- ⑦ 外部保証、報告におけるコミュニケーションの方法と信頼性の獲得
- ⑧ サステナビリティ (CSR) プラクティショナーの役割と今後の動向、講習後の課題サステナビリティ (CSR) とビジネス事例

対象者

- 企業代表者、CSR・環境担当部門長
- CSR・環境マネジメント担当部門
- 人材開発担当部門
- マーケティング担当部門
- PR・広報宣伝・IR 担当部門
- コミュニケーション担当部門
- 海外事務所・工場・支店において CSR を今後活発に展開することを計画している CSR 担当部門・担当者
- CSR を本格的に導入しようとしている企業の CSR 担当者
- CSR の包括的な知識の必要性を感じている方

受講のメリット

- ✓ グローバルリーダーにおけるサステナビリティ・CSR の資格講習です。
- ✓ 英国の主要団体 The Institute of Environmental Management and Assessment (IEMA) から資格が付与されます。この資格は世界で認識される資格です。
- ✓ CSR (Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任)の幅広い内容が網羅されており、世界を見据えて CSR の観点から何が企業にとって重要かを学ぶことができます。
- ✓ 内容は、レクチャーとグループワークがバランスよく織り交ぜられた集中プログラムです。講師と受講者の双方向でのやり取りで進められ、より効果的に学習することができます。
- ✓ 講習では、グローバルなケーススタディを活用し、グループワークを通じて実際に国内外で CSR の実践が問われる場面をディスカッションします。
- ✓ 主任講師は、欧州・ロンドンに拠点を置き、最新の CSR 情報を入手していますので、本講習を通じて、世界の先進的な知識を得ることができます。
- ✓ ゲストスピーカーは、シカゴ、ブリュッセル、アテネに拠点を持つ CSR コンサルティング会社 Centre for Sustainability and Excellence (CSE)社の代表取締役であるニコス・アヴロナス氏が務め、海外 CSR の状況についてのプレゼンテーション、Q&A セッションを受講できます。
- ✓ 包括的なスキルを得ることができます。
- ✓ ステークホルダーへのアプローチを学ぶことによって、ステークホルダーからのレベルの高い信頼性を得ることができます。また、ビジネスの透明性の理解・実践することによって、トリプルボトムラインをベースとした企業責任を効果的に推進していくことができます。
- ✓ サステナビリティ(CSR)プラクティショナー資格を取得することにより、組織内外での CSR 計画・戦略・プログラムをより効果的に実施できるようになります。
- ✓ 2 日間の講習を通じて様々な業界の CSR 関係者とのネットワーク構築をすることが出来ます。
- ✓ 資格取得後は、世界と日本それぞれのサステナビリティ CSR プラクティショナー資格保持者限定の情報交換サイトへの登録ができます。
- ✓ 日本のサステナビリティ CSR プラクティショナー資格保持者限定の情報交換用メーリングリストに登録できます。

日本における資格講習参加者の声

(順不同、敬称略)

- CSR の専門家の方々やこれを目指している方々と 2 日間一緒に過ごすことができ非常に刺激になった。(エルケム・ジャパン株式会社 代表取締役社長 伊達 裕幸)
- SROI の考え方を知ることができた。課題に向けて体系的にプラクティス (実践方法) を学べた。ディスカッションを重視し、CSR や統合報告について深く考え、他の受講者の方と共有できた。
(ALSOK 総合警備保障株式会社 総務部 CSR 推進室 和泉 竜也)
- 基本的なテーマが網羅されており、2 日間に凝縮して効率よく学べました。わかりやすい解説、具体的なケース、グループワークの組み合わせによって、知識の習得にとどまらず、考え方や視点を深めることができました。グループワークをはじめとする参加メンバーの方々とのコミュニケーションも楽しむことができ、今後のネットワーキングにも非常にプラスになると期待しています。(株式会社サステナビリティ会計事務所 シニアコンサルタント 堀江美保)
- CSR の概要、現在の動きなどを広く知ることが出来、大変勉強になりました。参加されている方も知識豊富な方が多く、質問や事例共有など有意義でした。ありがとうございました。(ヤフー株式会社 社長室 井手 一代)
- 初めて見るビデオが多く、欧州の企業の CSR に対しての問題意識の高さを知ることができました。又、参加者の方々が様々な分野の方であり、異なった物のとらえ方に良い刺激を受けました。でも一番良かったのは下田屋さんの生の声を聞いたことです。(ローム株式会社 CSR 室室長 村井俊文)
- 非常にあいまいにとらえていた CSR ということばについて世界的な動向、基準も含め具体的に示していただいたこと。企業で実際に CSR に携わっておられる他の受講生の視点や考え方に直接触れられたこと。ステークホルダーの分析の演習では、企業の立場での思考のシュミレーションが少しはできたように思う。など非常に得るものが多かったです。(公益社団法人京都モデルフォレスト協会事務局参事 田中 寛子)
- わかりにくかった CSR についてかなりクリアになりました。国によつての違い、国際的な事例を Discussion を交えながら進ませることができたので、自分の中での理解度は深まったこと実感しました。また参加のメンバーから得たものも大きかったです。(株式会社白寿生科学研究所 営業本部付文化担当広報ディレクター 内倉 眞紀子)

その他の受講者の声は[こちら](#)

CSR プラクティショナー資格講習受講企業・団体一覧

(順不同、敬称略)

- | | |
|------------------------------|-----------------------------|
| ■ 株式会社日立製作所 情報・通信システム社 | ■ 株式会社サステナビリティ・コミュニケーション・ハブ |
| ■ インフィニート・ラボ | ■ ソニー株式会社 |
| ■ 住友商事株式会社 | ■ 株式会社ニューラル |
| ■ キリンビール株式会社 | ■ 千住金属工業株式会社 |
| ■ 株式会社 Green prop 福岡支店 | ■ シチズンホールディングス株式会社 |
| ■ TCO2 株式会社 | ■ トッパンエディトリアルコミュニケーションズ株式会社 |
| ■ 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 | ■ 東京大学環境安全本部 |
| ■ 公益財団法人 日本財団 | ■ アオイネオン株式会社 |
| ■ 株式会社 富士通鹿児島インフォネット | ■ 株式会社資生堂 |
| ■ 株式会社シータス&ゼネラルプレス | ■ マツダ株式会社 |
| ■ 法政大学 | ■ 有限会社アイルジャパン |
| ■ コニカミルタホールディングス株式会社 | ■ ダウ・ケミカル日本株式会社 |
| ■ 株式会社日本製紙グループ本社 | ■ 東京エレクトロン株式会社 |
| ■ カシオ計算機株式会社 | ■ グラクソ・スミスクライン株式会社 |
| ■ NPO 法人 ECO 体験工房 | ■ リンテック株式会社 |
| ■ 特定非営利活動法人 C A N P A N センター | ■ ヤフー株式会社 |
| ■ ジョンソン・エンド・ジョンソン 株式会社 | ■ ローム株式会社 |
| ■ オイシア株式会社 | ■ 公益社団法人京都モデルフォレスト協会 |
| ■ パナソニック株式会社 | ■ 株式会社白寿生科学研究所 |
| ■ ベスター建物管理株式会社 | ■ アライド・ブレインズ株式会社 |
| ■ 生物多様性&ビジネスコーディネーション協会 | ■ 関西ビジネスインフォメーション株式会社 |
| ■ 株式会社 日立システムズ | ■ ギブン・イメージング株式会社 |
| ■ アックスデザイン株式会社 | ■ 静岡ガス株式会社 |
| ■ カルビー株式会社 | ■ 前原環境技術士事務所 |
| ■ 有限責任監査法人トーマツ | ■ 三菱レイヨン株式会社 |
| ■ サントリーホールディングス株式会社 | ■ 株式会社野村総合研究所 |
| ■ 武田薬品工業株式会社 | ■ エルケム・ジャパン株式会社 |
| ■ NPO 法人発達障害児支援 LOF 教育センター | ■ 総合警備保障株式会社 |

- 一般社団法人 相続安心支援センター
- 東京海上日動火災保険株式会社
- 楽学夢現合同会社
- 株式会社エアロアクア
- Kroll Inc.
- 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
- 株式会社サステナビリティ会計事務所
- 日本電信電話株式会社ネットワーク基盤技術研究所

英国 IEMA 認定 サステナビリティ CSR プラクティショナー資格保持者

[資格保持者一覧 \(日本\)](#)

[資格保持者一覧 \(世界\)](#)

講師 下田屋 毅



下田屋毅 (サステナビリティ代表取締役、ロンドン在住 CSR コンサルタント)

1991 年 川崎重工業株式会社に入社。工場管理部にて人事・労務・給与・社会保険・福利厚生・教育・労働安全衛生等を担当。労働安全衛生主担当としては、「安全衛生管理要綱」作成、「安全内部監査制度」を企画・導入。事業部の PR・広報宣伝強化プロジェクトのプロジェクトマネージャーとして、PR、広報宣伝、営業拡販、顧客・代理店との連携強化のための諸施策を実行。中国プロジェクト参画。2002 年出向にて、環境ビジネス(RPF 製造：株式会社エコ・マイニング)新規事業立上げメンバーに選

出、営業戦略・マーケティングを企画立案。

2007 年 9 月より英国 East Anglia 大学に留学。2008 年 8 月同校 MSc in Environmental Assessment and Management 修了。環境影響評価、環境マネジメントシステム、リスク管理、廃棄物管理、ライフサイクルアセスメント、カーボンフットプリントについて学ぶ。

2008 年 10 月英国 Lancaster 大学に進学。2009 年 9 月同校 MBA 修了。2010 年 12 月日本での職務経験・知識、また英国の環境科学とビジネスの修士で得た知識をベースに、CSR・環境のコンサルティング会社「Sustainavision Ltd.」を英国ロンドンにて設立。

2011 年 7 月より国際交流基金ロンドン CSR セミナーシリーズ・プロジェクトアドバイザー。

2011 年 9 月 欧州 CSR コンサルティング会社 [Centre for Sustainability & Excellence \(CSE\)](#) 社と戦略的パートナーシップを締結 2011 年 12 月より CSE 社の [アドバイザリーボードメンバー](#) に就任。

2013 年 7 月より [ビジネス・ブレイクスルー大学講師](#) (担当科目 : CSR)

<セミナー・講演の開催実績>

- [国際交流基金ロンドン CSR セミナーシリーズ講演 \(2011 年 7 月英国ロンドン\)](#)
- [「欧州新 CSR 戦略、日本企業はどう欧州 CSR に対応していくべきか」 \(2012 年 1 月東京\)](#)
- [「欧州・北米と日本の CSR\(サステナビリティ\) との違いを考える」 \(2012 年 2 月東京\)](#)
- [日本 LCA 学会環境情報研究会「持続可能な社会実現に向けた金融業のあり方に関する研究会」 \(共同開催\) にて「CSR についての欧州連合新戦略」を講演 \(2012 年 6 月東京\)](#)
- [「The Asahi Shimbun Sales Training Workshop 2012」にて基調講演 \(2012 年 10 月英国ロンドン\)](#)
- [HEC Paris Business School にて世界の CSR のトレンド等を講演 \(2012 年 11 月フランス・パリ\)](#)
- [サステナビリティ日本フォーラム、ヒューライツ大阪主催「人権ワークショップ、CSR にどう人権を生かすか」にて、「欧州企業の人権への取り組み」を講演 \(2013 年 2 月東京\)](#)
- [経済人コー円卓会議日本委員会、シータス&ゼネラルプレス主催、「グローバルな視点で日本の CSR の課題と可能性を考える～人権、欧州、中国の最新スタンダードとは～」にて、「欧州の CSR 事情と日本の CSR の違い」を講演 \(2013 年 3 月大阪\)](#)
- [中央大学企業研究所公開研究会にて「欧州の CSR 事情と日本の CSR の違い」を講演 \(2013 年 3 月東京\)](#)
- [オルタナとの共催による「伝わる CSR「ストーリーテリング」講座」にて「サステナブル・ストーリーテリング」を講演 \(2013 年 6 月東京\)](#)
- [第 15 回経営倫理実践研究センター主催 時局セミナー「欧州の CSR の動向について～GRI G4 の改訂点と直近の欧州 CSR・経営倫理事情～」を講演 \(2013 年 6 月東京\)](#)

- [経団連 企業市民協議会 \(CBCC\) 懇談会にて、「ビジネスと人権に関する指導原則～欧州企業の取り組み～」を講演 \(2013 年 6 月東京\)](#)
- [株式会社テクノファ主催「CSR を事業に統合する為のファーストステップ「CSR」入門コース「欧州の先進事例から戦略的 CSR を学ぶ」の講義 \(2013 年 6 月川崎\)](#)
- [中央大学商学部商品学講座にて「CSR \(企業の社会的責任\) とは？」を講義 \(2013 年 6 月東京\)](#)
- [JETRO London セミナーにて「企業の社会的責任 \(CSR\) とビジネスリスク」を講演 \(2013 年 9 月ロンドン\)](#)
- [王立国際問題研究所 \(チャタムハウス\) のラウンドテーブルにて「コーポレートガバナンスと CSR」に関するプレゼンテーションを実施 \(2014 年 3 月英国ロンドン\)](#)
- [環境研究会勉強会にて「～CSR の事例紹介～」を講演 \(2013 年 3 月川崎\)](#)
- [グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク主催「CSR セミナー 基礎から欧州最新トレンドまで」を講演 \(2014 年 4 月東京\)](#)
- [CSR 京都主催「CSR の社内浸透のために～欧州事例に学ぶ～」を講演 \(2014 年 9 月京都\)](#)
- [京都 CSR 研究会主催「欧州 CSR 事情～新戦略の動向と企業と NGO の連携～」を講演 \(2014 年 9 月京都\)](#)
- [「CSR の社内外浸透に役立つ サステナブル・ストーリーテリング研修」を開催 \(2014 年 10 月\)](#)

<執筆・連載>

- [「志のソーシャル・ビジネスマガジン オルタナ：欧州 CSR 最前線」](#)
- [「オルタナ・オンライン：欧州 CSR 最前線」](#)
- [「環境プランナーメールマガジン」](#)
- [「ブレンセンター・トピックス提言：CSR の推進に不可欠な社内浸透教育の重要性」](#)
- [「時事通信社 金融財政ビジネス・経済人」](#)
- [「東洋経済オンライン ここがへんだよ日本の CSR」](#)
- [「シートス&ゼネラルプレス サステイナビジョン下田屋毅氏に質問」](#)
- [「レスポンスアビリティ社 メルマガ、サスナビ 欧州ここだけの話」](#)
- [「日経エコロジー CSR 世界の潮流」](#)
- [「新・CSR 検定 3 級公式テキスト」 3.世界の CSR をめぐる動きとは](#)
- [「日本復活を本物にチャタムハウスから世界へ」 5.5.5 日本企業のガバナンスへの社会的責任投資の影響](#)
- [「ZUU オンライン」](#)

ゲストスピーカー ニコス・アヴロナス氏



ニコス・アヴロナス氏 (CSE 代表取締役兼創設者)

ゲストスピーカーは、シカゴ、ブリュッセル、アテネに拠点を持つ CSR コンサルティング会社 [Centre for Sustainability and Excellence \(CSE\)社](#)の代表取締役であるニコス・アヴロナス氏が、海外から CSR のトレンドについてプレゼンテーション、Q&A セッションを実施します。

ニコス氏は、2010 年に信頼できる企業行動を奨励する Trust Across America により「信頼できる企業行動におけるトップ 100 人のリーダー」に選ばれました。彼は、国際的に「持続可能な発展」や CSR に関するトピックについてのスピーカーとしてもよく知られており、北米、ヨーロッパ、中東及びアジアの 20 カ国において講演を行ったり、専門家を育てることに尽力をしています。

ニコス氏は、サステナビリティ、CSR、企業管理、企業倫理と業務管理の専門家です。この 15 年間、彼は、フォーチュングローバル企業 1000 を含む世界を牽引する企業である BP、Dell computers、Mc Cain、DHL、Lafarge、Deutsche Post、HSBC、the Bank of Cyprus、DIFC、the European Investment Bank、the Lloyds Banking Group に対して数々のプロジェクトを実施してきました。さらに、世界で活躍する 5000 人以上の経営者に対するトレーニングやコーチングを行ってきました。

ニコス氏は、世界中の企業の議長や助言者の一員として貢献するとともに、様々なビジネスピックに関してワークショップや国際会議をコーディネートすることにも携わっています。

「Management Models for the future」(2009 年発刊)の著者の一人として、「責任ある競争」について分析をしています。彼のサステナビリティ、CSR、企業統治、気候変動についての記事や調査は、国内外の雑誌や新聞に取り上げられており、また CNBC、CCTV (China Central TV)、Voice of America など様々なメディアからもインタビューを受けています。

英国 IEMA とは

[The Institute of Environmental Management and Assessment \(IEMA\)](#) は、英国の主要団体として、15,000 の個人会員と 83 か国をベースにした企業会員を有する世界的な組織です。環境分野における持続可能な開発を促進することを目的とし、環境マネジメント・監査・影響評価のサポートに加えて、気候変動・CSR 関連の資格講習のサービスを提供しています。

CSE とは



[Centre for Sustainability and Excellence \(CSE\)社](#) は[英国 IEMA の公認](#)トレーニング団体として、このサステナビリティ (CSR) プラクティショナー資格講習を、欧州・北米・中東・アジアにて開催しています。

CSE 社はサステナビリティ・CSR・持続可能な開発に焦点を当てたグローバル戦略コンサルティング、教育訓練を実施しており、シカゴ、アテネ、ブリュッセルに拠点があります。

CSE 社は世界 28 か国から 5000 人のエグゼクティブに対して CSR・気候変動関連のトレーニングを実施した実績があります。また、CSE は国際的な専門家やコンサルタントのネットワークを持ち、団体や政府、そして研究所に対して、ステークホルダーの価値を高めるためのユニークで進んだサービスを提供しています。

[お問い合わせ・お申込み](#)

よくあるご質問 (FAQ)

Q1 : 現在、直接の業務としてはCSRの担当はしていません。受講は可能でしょうか？

本 CSR 資格講習は、CSR 担当部門の方が多く受講されますが、CSR について知識を得たい、これからしっかり実施していきたいなど、CSR に携わってこなかった方にもご受講いただいております。

CSR 担当部門からご受講される方でも新しく CSR 部門に配属され、これから CSR を勉強されるという方もいらっしゃいますし、海外では、CSR 部門に配属された方にこの資格を最初に取得させることをしている企業もあります。

CSR の業務に携わっていない方は、CSR 業務に携わっている方より、理解に時間がかかるかもしれませんが。しかしながら講習は基本的な CSR の知識についても触れていきますので、順を追って理解できると思います。またわからないことがあれば講習中、または、休み時間に質問をいつでも受け付けていますので、理解できなかったところについては聞いていただけたと思います。

Q2 : 受講料はどのように支払うのですか？

受講料は、「銀行振り込み」か「Paypal (ペイパル) を通したクレジットカードでのお支払い」をお願いしています。振り込みを選択される場合には、こちらから当社の日本の銀行への振り込み先をお知らせいたします。また、ご要望の場合は、請求書を発行いたします。

Q3 : 英国 IEMA 認定サステナビリティ (CSR) プラクティショナー資格の更新要件について教えてください。

資格取得日から 12 か月以内に、社内外の CSR に関連の研修・セミナー・ワークショップへの参加 (16 時間に相当する研修) が必須となります。

これら研修・セミナー・ワークショップは、社内外関わらず、また、どの団体の主催するものでも OK です。資格取得後、12 か月後に、当方からのメールにて確認させていただくこととなります。(所定の報告書にて提出が必要となります)

資格更新料は 100 ユーロの費用がかかります。

また、もしこの期間に CSR 関連のセミナー (16 時間相当) に参加できなかった場合には、更新の条件として、別途課題の提出が必要となります。この場合は、別途約 400 ユーロの費用が必要となります。

Q4 : 英国 IEMA 認定サステナビリティ (CSR) プラクティショナー資格講習は今後どの程度開催されますか？

1 年に 2 回の開催を予定しています。
2016 年度については、2016 年 3 月・2016 年 10 月を予定しています。

Q5 : 開催は東京が多いですが、他の地域での開催はありますか？

2016 年 3 月、10 月の開催は東京にて開催しますが、それ以外の地域では、現在予定しておりません。

Q6 : 予定している開催場所以外での開催は可能でしょうか？

東京以外での開催をご要望の場合、10 名以上の人数の参加者が確保できる場合には、ご要望の地域にて開催いたします。詳細については、こちらから[お問合せ](#)ください。

Q7 : 会社内の CSR 担当者や各部門長を対象にして、英国 IEMA 認定サステナビリティ (CSR) プラクティショナー資格講習を開催することは可能でしょうか？

各企業様や団体様に対して内部の方々向けに個別に英国 IEMA 認定サステナビリティ (CSR) プラクティショナー資格講習を開催することは可能です。また、企業様の研修室での開催など出張も可能です。都度お見積りさせていただきますので、詳細については、こちらから[お問合せ](#)ください。

Q8 : 受講後の「資格証明書」は、何時何所から発行交付されますでしょうか？また、申請から交付までの流れを教えてください。

講習後の課題の合格を持って資格が付与されます。講習後の課題の提出締切日（講習受講から 2 週間後）から、課題の審査と申請に約 1 か月程いただいております。その後、合格されている場合には、PDF での資格証を E メールにて送付いたします。
そして、紙の資格証をご要望の有無を確認、ご要望をいただいた方のみ紙の資格証を発行いたします。紙の資格証の送付は、当社サステナビリティから、ご指定の住所（会社あるいは自宅）に送付いたします。

Q9 : 申込み後のキャンセルはできますか？

キャンセルについては、[こちら](#)をご確認ください。

その他のお問合せにつきましては、[こちら](#)からお願いいたします。

以 上